

(6年)

	今年度の課題	改善策	補充・発展指導計画	年度末評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体の構成を捉え、要旨を把握することができない。 習った漢字を、作文で書くことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> キーワードを見つけられるように、文章を読む時間や、語彙力を増やすための調べる時間を十分に確保する。 学習した漢字が分からず書けない時には、国語辞典で調べて書く習慣を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章のキーワードにサイドラインを引かせる。国語辞典を活用し、自主学習で意味調べに取り組むよう随時指導する。 全教科において分からない言葉に出会ったら、辞書引きする習慣を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分からない言葉に出会った際に、ipadを活用して自ら調べる児童が増えた。 上記の通り調べる習慣を身に付けさせることができた。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 人物や出来事と歴史的背景を関連付けることが難しく、丸暗記になりがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜそうなったのか」の理由を理解したかを確認しながら学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容をマイパソコンで調べる活動を適宜取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ipad や資料集を活用し、児童が調べる習慣を身に付けさせられた。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題で、問われていることを理解し、立式することが難しい。 既習事項の定着が不十分なままになってしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数直線や4マス関係図、具体物を使って、その場面をイメージできる方法を指導する。 ベーシックドリルの結果を活用した補充プリントや計算ドリルを毎日の課題に課す。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の学習全般において教員が説明をするのではなく、児童に説明をさせるように取り組む。 授業内で、5分間程度、ベーシックドリルの補充プリントに取り組む時間にす。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章題を説明できる児童が増えた。 ベーシックドリル診断テストの正答率が少々上昇した。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験の結果や根拠を基に、理由を予想したり、新たな問題を見出して表現したりすることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> なぜその実験を行うのか、多面的・多角的な考えをもつためにペアやグループでの話し合いの時間を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が考察を言いすぎないように心掛ける。 実験が失敗したとしても、その結果からいえることを考察させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 何について、どのように表現するかを明確にすることで、自分の考えを表現できる。 話し合いや、表現の時間を増やすことが必要。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自身の運動能力に自信がもてず、運動に対して前向きではない児童が多い。 自分の動きを客観的に見ることができない。 体幹が弱く、長い間姿勢を保てない。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材提示の工夫や、指導者の声掛け等で、学習意欲につなげる。 小グループでの話し合いや、一人一台端末を使う時間を確保する。 体幹を意識した運動を導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者による良い動きの称賛を積極的に行う。ルールの工夫や学習計画を見直す。 マイパソコンを活用し自分の動きを確認できるようにする。 組体操の一人技で習得した技を継続して練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ロイノートへの記述からチームや自己の分析ができていく児童が増えた。 自分の動きを録画し、スロー再生などを視聴しながら技のポイントや改善点を見つけていくことができた。 組体操を通して体幹を鍛えることができた。体育館体育で継続している。